令和 8 年 8 月 22 日

公益社団法人 日本技術士会

埼玉県支部

26CPD008_CPD 講演会「再生可能エネルギーを考える」 活動報告

1．活動テーマ： CPD 講演会「再生可能エネルギーを考える」

2．開催日時 ： 令和 8 年 8 月 1 日(土) 13 時 00 分～17 時 00 分

3．開催場所 ：まるまるひがしにほん　東日本連携センター　2 階　『ビジネス交流サロン』

4．参加人数 ： 現地参加 27 名、リモート参加 15 名、参加者計 42 名　　（講師 3 名は含まない）

5．実施内容 （司会 公益社団法人日本技術士会　埼玉県支部　村山　肇）

5.1 開会の挨拶　（13:00～13:05）

日本技術士会埼玉県支部　支部長　石田 正雄

5.2 講演　（13:20～14:00）

1） 埼玉大学社会変革研究センターの脱炭素推進部門の取組み紹介　（13:05～13:20）

講師：持木　克之氏　（埼玉大学社会変革研究センター准教授）

内容：脱炭素推進部門のカーボンニュートラルの実現に向けた取組みについて、ご紹介いただいた。

・キャンパスの電力消費に伴う CO2 排出量の削減の取組み、　・連携による地域づくりへの貢献

・脱炭素技術研究開発グループの 2 つの研究プロジェクト

・脱炭素教育活動（授業としての課題解決型プログラム）

2）環境や社会への影響に配慮した再生可能エネルギー関連施設の導入方策　（13:20～14:00）

講師：村山　武彦氏（埼玉大学社会変革研究センター　客員教授）

内容：再生可能エネルギー施設導入に伴う環境紛争の発生状況や自治体の関連制度の制定状況を共有いただいた上で、環境や社会への影響を配慮した施設導入を行う為の取組みについてご講演いただいた。

・環境を配慮した立地選定を行う上での環境アセスメントの実施方法の検討

・複数設備立地を想定した環境社会影響配慮の取組み（北九州市の例）

・ゾーニング手法によるエリア選定の取組み（石狩市・新潟市などの例）

3）再生可能エネルギーの大量導入に伴う配電系統への影響　（14:00～14:20）

講師：仲泊　明徒氏（埼玉大学社会変革研究センター　助教）

内容：太陽光発電の発電量が需要を上回ると系統条件によっては電力の逆潮流が発生し電圧が上昇すること、その電圧上昇に関する対策としては系統側機器による 電圧調整、PCS による制御等があるが、今後再エネの大量導入を図る上で、 機器特性や通信・運用上の制約を踏まえた 配電系統運用の研究が必要であることを、配電電圧制御の研究事例説明も含めてご講演いただいた。

5.3 リモート参加の方へのご挨拶とご連絡　（14:20～14:30）

日本技術士会埼玉県支部　副支部長 菅原　宏

※この間【会場参加】は休憩

5.4 意見交換会　（14:30～15:55）

① グループ分け（３G）・自己紹介（アイスブレーク）　（14:30～14:35）

② グループディスカッション　（14:35～15:35）

テーマ；再生可能エネルギーの導入を推進していく上で、技術士（又は技術士会）として何かできるか

③ 各グループ発表　（15:35～15:55）

A チーム：地元をキーワードにして技術士の専門性公益性を十分に生かすフィールドがあるのではないか。

B チーム：多分野の専門家の方と専門外の方で様々な意見を出し合うことが重要だと考えている。

C チーム：技術士会・教育関係でできること、国の政策委員会等に参画するという意見が提案された。

5.5 閉会挨拶　日本技術士会埼玉県支部　副支部長 菅原　宏　（15:55～16:00）

講評　埼玉大学社会変革研究センター　客員教授　村山　武彦氏

「地域の暮らしや生業と再エネ利用との距離をいかに近づけるかが課題の一つではないかと考えています。埼玉県内にも営農型発電を活用して収穫された農作物を、近くのレストランで料理として提供する取組みがあります。再エネを活用した生産が地域にも役立つ仕組みが模索されつつあります。あくまで一つの事例ではありますが、地域での活動と再エネ利用との関係を考えるうえで、今後の参考にしていただければと思います。」

5.6 懇親会

現地参加者により、懇親会を実施。（16:10～17:00）

【参考：講演会写真】



グループ発表



集合写真

（文・写真撮影：埼玉県支部　早瀬和広）